

国会会議録に見る前置き表現の変化

森 勇 太

1 はじめに

現代社会のコミュニケーション上、敬語や授受表現の適切な使用は重要なものである。筆者はこれまで特定の発話行為における運用を調査することで敬語と授受表現の変化、およびその関わりについて考察してきた（森 2010；2011 等）。本稿では“前置き”という発話行為を通して、戦後における敬語と授受表現の運用、およびその変化の関連性を捉えていきたい。

現代において、大勢の聴衆の前でのプレゼンテーションなど公式の場で、(1)のように話し手自身が発話後に行う事柄について言及する“前置き表現”を用いることがある¹。

(1) a [講演の冒頭で] 今日は日本語の歴史についてお話しいたします。

b [講演の冒頭で] 今日は日本語の歴史についてお話しさせていただきます。

このような発話は、現代の講演・発表における一定の型として存在しており、(1)のような前置き表現がなく話が始めると、唐突な印象を受ける。このような前置き表現では(1b)のように「させていただきます」が使用されることがあり、規範的でないと問題視されることもある。このような場面で、敬語の運用、また授受表現、特に「させていただきます」等話し手への利益があることを示す受益表現の運用には変化があったのだろうか。あったとすれば、どのような変化だったのだろうか。

日本語の敬語の運用には戦後に限っても様々な変化があったことが知られているが、その研究は、研究者の観察によって述べられたもの、あるいはアンケート調査に基づくものが多く、運用実態としてどのような変化があったかを捉える視点は未だ不十分なように思われる。

本稿では前置き表現に用いられる敬語・受益表現について調査することで、日本語の受益表現と敬語体系の変化およびその関わりについて調査を行っていきたい。前述の「させていただきます」の伸長は戦後のことであるので（井上 1999）、本稿では国会会議録を用いてその変化を観察する。

本稿の構成は以下の通り。2 節ではデータとして用いる国会会議録の資料性に触れるとともに、本調査の概要を述べる。3 節ではデータを観察し、大局的な変化について述べる。4 節では敬語体系・受益表現の変化とその解釈・要因についてまとめる。最後の 5 節は本稿のまとめである。

2 調査の枠組み

2. 1 調査の枠組み

本稿では、「国会会議録検索システム」からテキストを取得し、調査を行った。近年、国会会議録を用いた日本語研究には松田(2008)等の研究があり、言語研究のためのツールとしての有用性も示されている。

¹ 本稿では発話行為の枠組みについて詳しく述べる紙幅の余裕がないが、筆者は話し手が発話後に行う行為について言及する表現を大きく行為拘束表現として位置づけ、その中でも話し手利益（または利益性に中立なもの）で聞き手の選択性が低いものを“前置き”、話し手利益で聞き手の選択性が高いものを“許可求め”、聞き手に利益があるものを“申し出”と分類している（山岡 2008 等も参照）。

国会会議録を用いる利点として、その口語性が挙げられる。実際に発せられた言葉がほぼそのままの形で記録されている点は大きな魅力である。また、戦前の帝国議会も含めれば 1890 年代から 100 年以上の蓄積があり、本会議・委員会といった形態の異なる会議があるという点を含めて、言語量が豊富であることも利点である。さらに、議会での発言は公的な場での発言であり、言語規範に則った発言が求められるため、敬語も表れやすい。このように国会会議録は、標準語における敬語運用の実態に迫りうる資料である。

ただし、松田(2008)に示されるように、国会会議録は談話のすべてをそのまま写したものではない。また、OCR 読み取りにおける誤字・脱字や、外字処理、正文の過程での錯誤などといった問題が存在する。また標準語の反映と考えるにしても、話者は中年層以上が多く、女性より男性の発話量が多い。このような点には注意が必要である。

2. 2 調査の概要

2. 2. 1 範囲

調査対象は、1951 年から 2011 年までの期間で、5 年おきに、2 月 1 日から 15 日までに開かれた予算委員会を抽出した（会議の開催日数はそれぞれの年で異なっている）。委員会に限定したのは、本会議よりも対話に近い形式で行われていると考えたためである。また、予算委員会に限定したのは、通時的調査のため、同時期に恒常的に開かれている会を対象としたかったためである。

2. 2. 2 調査する表現

前置き表現には個々の文脈に応じてさまざまなタイプのものが存在する。しかし、敬語や受益表現使用の歴史を追究するためには、条件がなるべく一定になるよう発話場面を揃える必要がある。本稿では、質問の前置きとなる表現に着目し、対象とする用例の条件を(2)の通りとした。

- (2) a 一人称主語：話し手が行う動作について事前に言及する文のため、一人称主語の文を集める。主語が明示されているかどうかは問題としない。
- b 非過去、完成相、肯定：発話後に開始される動作について述べるものであるため、非過去・完成相の形式に限定する。意志形や「と思う」等、他のモダリティに関わる形式の有無は問題としない。
- c 発話行為動詞：発話行為動詞は「質問する」「聞く」「尋ねる」に限定する²。
- d 主節、および主節に準じる従属節：(3)参照。
- e 談話における位置：(4)参照。

(2d)について、発話機能を認定する単位としては、熊谷(1997)や熊谷・篠崎(2006)などのように句単位で認める方法もある。しかし、国会会議録では一人の発話がかかなり長い単位で行われることから、基本的に文単位で発話機能を果たすものとして抽出した。ただし、口語では文が明確に終止することは文章語に比べて少なく、純粹に主節に限ると用例が限定される。そのため、C 類(南 1974)のうち丁寧語が示されやすい「が」「けれども」節は独立したひとつの発話として扱う。例えば(3)の下線部は後の文とは独立した前置きの用例として数を集計している。

(3) 委員長にお尋ねしますが、[前置き]

総理は十分前に何か御用事でお帰りになるというのでありますが、それはほんとうであ

² その他にも謙讓語 A の動詞「うかがう」が用いられることがあるが、今回は接辞的な敬語(一般形、菊地 1994)の運用に絞って考察した。

りますか。[質問]

(1951/2/2, 小林進³)

(2e)談話の位置による認定について、当該の発話が、談話のどの位置にあるかも重要である。(4)の発話において、談話構造上最も重要な部分は、波線部の質問にあると考えられるが、その前に対象とする前置き表現がみられる。本稿では質問部分に先行するものを前置き表現として採る。点線部のように質問部分の後に発話行為動詞が表れることもあるが、これについては発言を終了するための型に沿った発言として、前置きとは認めない。

- (4) それで、きょうは関係大臣に来ていただいております、まず、対ロシア外交についてお聞きをしたいと思います。前原大臣が、きょうからロシアを訪問されて、あす以降、ラブロフ外相初め向こうの要人と会談をされるというようにお聞きしております。[中略] ロシアへ訪問されて、政治生命をかけると言われたこの北方領土返還にける取り組みに対する覚悟と、今回、訪ロの目的というのは何なのかということ、まず外務大臣にお尋ねをしておきたいと思います。(2011/2/10, 佐藤茂樹)

3 前置き表現の変化

3. 1 敬語要素の認定と組み合わせ

3. 1. 1 敬語の分類

まず、前置き表現で用いられる敬語・受益表現の分類を述べておく。敬語の分類は基本的に菊地(1994)に従う。敬語の要素は(5)の通り分類する。

- (5) a オ語幹：敬語接頭辞オとオに後接する動詞連用形・動名詞を合わせた部分。以下の例の下線部を指す。例：「お尋ねします」「御質問申し上げます」
b 謙譲語 A：「申し上げる」。例：「お尋ね申し上げます」⁴
c 謙譲語 B：「いたす」「申す」「参る」。例：「お尋ねいたします」「お尋ねして参ります」
d 受益表現：「～ていただく」「～てもらう」。「いただく」は謙譲語 A と受益表現の機能を併せ持つ表現と考える。
e 丁寧語：「ます」「です」。

3. 1. 2 要素の組み合わせ

これらの要素は単独で用いられることもあるが、組み合わせで用いられることが多い。次に、調査範囲で使用されている敬語要素の組み合わせを確認する。本データに表れた敬語カテゴリーの組み合わせをすべてリストアップすると、(6)①-⑩の通りである。一般に待遇的要素の数が多いほど、丁寧な表現と認識されやすいことを踏まえ、使われている敬語・受益表現カテゴリーの少ないものから多いものへ並べた。

- (6) ①敬語使用なし（以下「①なし」）：

独立国として必要最小限の防衛力というのは何と言われると、今つくったものが必要最小限だと。それは問いをもって問いに答えるに等しいのであって、私は、総理、一つ聞きたい。邦人救出について昨年言及をされた。国はどこでもいいですよ。[...]

³ 用例には発言者を敬称略で示す。原文の改行は基本的に削除した。[...]はそれ以後の発言を省略したことを示す。

⁴ 「先生へのご連絡」のように、オ語幹のみでも補語の人物を高めるという謙譲語 A の機能は果たされるが、ここでは動詞・動名詞に下接するものだけに限定する。

(2011/2/1, 石破茂)

②オ語幹 (以下「②オ」):

池田大蔵大臣にお聞きしたいのだが, この終戦処理費の算定については, 日本政府が関係方面の要求に対して自由に裁定し, 検討し得る権能があるかどうか, お聞きしたい。

(1951/2/5, 林百郎)

③丁寧語 (以下「③丁寧」):

相当部分が実行できていると言いますが, 今質問したのは全部実行できていないじゃないですか。では, 今度は三番目のお約束の件を聞きます。最低保障年金七万円, 出すんですね。

(2011/2/8, 棚橋泰文)

④オ語幹+丁寧語 (以下「④オ+丁寧」):

では, 改めてお尋ねしましょう。与謝野大臣は, このような形で顧問におられる方が, 銀行業務の申請の, 金融庁との交渉にかかわる業務をされることを今後も認めていかれますか。

(2006/2/14, 馬淵澄夫)

⑤オ語幹+謙譲語 B (以下「⑤オ+B」):

最後に一点お尋ねをいたしておきたい。また厚生大臣の考えをぜひとも固めておいてもらいたい問題は, 社会保障制度の勧告が出ましたときに, [...]

(1951/2/3, 川崎秀二)

⑥受益表現+丁寧語 (以下「⑥受益+丁寧」):

やはり制度的な欠陥をこの医療体系, 医療行政あるいは医療税制に認めざるを得ない立場から, 若干の質問をさせてもらいたいと思います。御承知のとおり, いわゆる乱診乱療も大きな問題でございますけれども, [...]

(1971/2/2, 岡沢完治)

⑦謙譲語 B+丁寧語 (以下「⑦B+丁寧」):

私は, きょうはきわめてじみな質問をいたします。一つは, 開発行政と申しますか, 開発政策, これはいよいよいままでのいき方ではなくして, この際ひとつ思い切って転換すべきではないか, こういった点が一つであります。

(1971/2/2, 阪上安太郎)

⑧オ語幹+謙譲語 A+丁寧語 (以下「⑧オ+A+丁寧」):

具体的質問として, 文部科学大臣にお尋ねを申し上げたいと存じます。まず, 最近の地方分権論議をめぐって, 教育は地方自治体に任せればよいという一部の考え方があるわけであります。

(2006/2/9, 土屋正忠)

⑨オ語幹+謙譲語 B+丁寧語 (以下「⑨オ+B+丁寧」):

与謝野大臣, お聞きいたします。この民主党の, 政府資産を毎年売って, また, 埋蔵金を見つけて毎年五兆円を出し続ける, これから永遠にという意味ですよ。こういうようなマニフェストは, 実際問題, 可能だというふうに思われますか。

(2011/2/3, 田村憲久)

⑩謙譲語 A+受益表現+丁寧語 (以下「⑩A+受益+丁寧」):

そこで, きょう, 私の時間は, 経済政策を中心に総理と関係大臣に質問をさせていただきます。総理は, たびたび今は第三の開国だということをおっしゃいますよね。

(2011/2/1, 甘利明)

⑪オ語幹+謙譲語 A+受益表現+丁寧語 (以下「⑪オ+A+受益+丁寧」):

この新燃岳の噴火の問題, そしてまた鳥インフルエンザの問題, それから口蹄疫の問題を中心にきょうは御質問をさせていただきたいと思っております。まず, 新燃岳の噴火の関係でございます。

(2011/2/15, 川村秀三郎)

3. 2 各形式の用例数

まず表 1 に、その年における各形式の用例数（上段）と使用の割合（下段）を示した。以下、3.2.1 節では、敬語カテゴリーに着目してそれぞれの使用の推移を考察し、3.2.2 節では、敬語の組み合わせに着目してそれぞれの表現の推移を考察することにする。

表 1 使用される敬語カテゴリーの組み合わせ

オ - A - 受 - B - 丁	S26 (1951)	S31 (1956)	S36 (1961)	S41 (1966)	S46 (1971)	S51 (1976)	S56 (1981)	S61 (1986)	H3 (1991)	H8 (1996)	H13 (2001)	H18 (2006)	H23 (2011)
① x - x - x - x - x - x 例：尋ねる	1 0.8%	0 0.0%	0 0.0%	3 2.0%	2 1.0%	3 2.1%	1 0.9%	0 0.0%	3 1.6%	1 0.6%	0 0.0%	1 0.6%	5 2.6%
② オ - x - x - x - x - x 例：お尋ねする	5 4.0%	5 2.5%	1 0.7%	6 4.1%	3 1.5%	5 3.5%	3 2.7%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.6%	1 0.8%	2 1.2%	2 1.0%
③ x - x - x - x - x - 丁 例：尋ねます	23 18.5%	12 5.9%	9 6.7%	12 8.1%	11 5.5%	32 22.4%	15 13.4%	22 16.2%	28 15.2%	32 17.9%	22 17.3%	23 13.8%	40 20.6%
④ オ - x - x - x - x - 丁 例：お尋ねします	45 36.3%	109 54.0%	55 40.7%	50 33.8%	104 52.3%	53 37.1%	54 48.2%	70 51.5%	96 52.2%	74 41.3%	55 43.3%	79 47.3%	98 50.5%
⑤ オ - x - x - x - B - x 例：お尋ねいたす	2 1.6%	5 2.5%	2 1.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
⑥ x - x - x - 受 - x - 丁 例：尋ねさせていただきます	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.6%	1 0.5%
⑦ x - x - x - x - B - 丁 例：質問いたします	13 10.5%	3 1.5%	4 3.0%	21 14.2%	9 4.5%	4 2.8%	10 8.9%	8 5.9%	16 8.7%	9 5.0%	5 3.9%	7 4.2%	8 4.1%
⑧ オ - A - x - x - x - 丁 例：お尋ね申し上げます	14 11.3%	6 3.0%	0 0.0%	1 0.7%	2 1.0%	2 1.4%	3 2.7%	2 1.5%	3 1.6%	4 2.2%	0 0.0%	5 3.0%	1 0.5%
⑨ オ - x - x - x - B - 丁 例：お尋ねいたします	21 16.9%	62 30.7%	64 47.4%	54 36.5%	66 33.2%	41 28.7%	24 21.4%	22 16.2%	32 17.4%	37 20.7%	11 8.7%	23 13.8%	11 5.7%
⑩ x - A - 受 - x - 丁 例：尋ねさせていただきます	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.7%	1 0.5%	2 1.4%	1 0.9%	6 4.4%	4 2.2%	12 6.7%	25 19.7%	20 12.0%	21 10.8%
⑪ オ - A - 受 - x - 丁 例：お尋ねさせていただきます	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.7%	1 0.9%	6 4.4%	2 1.1%	8 4.5%	8 6.3%	6 3.6%	7 3.6%
	124	202	135	148	199	143	112	136	184	179	127	167	194

凡例＝オ：オ語幹，A：謙讓語 A，受：受益表現，B：謙讓語 B，丁：丁寧語。

3. 2. 1 使用される敬語カテゴリー

まず、敬語カテゴリーごとの使用の推移をまとめたグラフを図 1 に示す⁵。

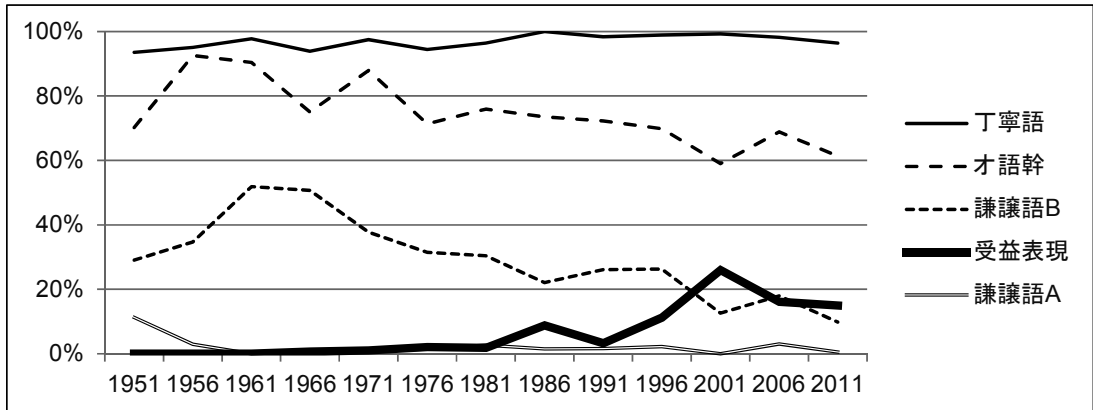


図 1 使用される敬語カテゴリー

⁵ 丁寧語は③④⑥⑦⑧⑨⑩⑪，オ語幹は②④⑤⑧⑨⑪，謙讓語 B は⑤⑦⑨，受益表現は⑥⑩⑪，謙讓語 A は⑧⑩⑪の累計で算出した。

国会では丁寧体が基調であることを反映して、丁寧語は通時的によく用いられている。若干の不
 使用例があるが、「聞く」「質問する」のように動詞基本形で文が終わる例はほとんどない。表2に
 示すように、助動詞「たい」で終わる例 [→(7a)] が多く、他に「せざるを得ない」 [→(7b)] が承
 接する例もある。

表2 丁寧語不使用例の句末形式

節タイプ	動詞の形態	S26 (1951)	S31 (1956)	S36 (1961)	S41 (1966)	S46 (1971)	S51 (1976)	S56 (1981)	S61 (1986)	H3 (1991)	H8 (1996)	H13 (2001)	H18 (2006)	H23 (2011)
主節末	基本形			1	1		1							
	と思う		1		1									
	せざるを得ない				1									
	たい	3	7	2	5	3	5	3		3	2	1	2	7
ガ節	基本形					2								
	たい	5	1			1	2		1				1	
テレドモ節	基本形		1			1								

(7) a 次に、三十五人学級で聞きたい。小中学校の少人数学級ですけれども、国は、一九八〇
 年から、それまでの四十五人学級から四十人学級に移行したわけですが、[...]

(2011/2/4, 宮本岳志)

b 参議院における前副議長重政氏の秘書がピストルを密売した、治外法権的な場所におい
 てピストルを密売したということで、これは非常に国民から糾弾をされたことは総理御
 承知のとおり。ところが、また私は、遺憾なことに、ここで二月三日の朝日新聞の記事
 を実は持ち出してお尋ねせざるを得ない。これは、あなたが任命した閣僚の中に該当す
 る人があるとすれば、その閣僚の方には、個人的にはまことにお気の毒なことでありま
 するけれども、[...]

(1966/2/8, 野原覺)

基本形で終わる表現は1961年・1966年・1976年にそれぞれ1例ずつ見られるのみだった。

(8) a 清潔な政治とは清潔な選挙でなければならぬ、このことは総理もお認めであります。こ
 こで私はあえてお尋ねをいたす。政治の姿勢を正すために清潔な政治ということをも
 って国民に範を示すためにあえてお尋ねをいたしますが、閣僚の中に昭和三十三年の
 選挙、昭和三十五年の選挙で選挙違反に問われておる——[...]

(1966/2/10, 野原覺)

b 外務大臣に聞く。外務省には資料がないのです。私が要求したけれども出さないのだから。
 数字じゃないのです。どのような制限を加えてきておるかと聞いておる。数字を聞
 いておるのじゃない。そんなことがわからぬで三月に行なわれる会議に出られますか、
 あなたは。

(1966/2/10, 加藤清二)

c 福田国家公安委員長にお尋ねする。それで先ほどの御答弁だと、真相がだんだん出てく
 るある一定段階に来たときにと、こういうように言われておるわけでありませう。けさの
 段階においては刑事局長に、まあ内々で調査だか、調べておけ、それは捜査に踏み切っ
 たという意味とは違う、こういうように言われておるわけです。そうすると、一定段階
 とは一体どういう時期になったならばこれは真剣に捜査をするようになるか。その一定
 段階とは何ぞや。

(1976/2/6, 小沢貞孝)

(8b)については、波線部を質問と認めて前置き表現と解釈しておいたが、同一人物の引用部の前
 の発言には(9)のようなものもある。(8b)の下線部も(9)と同様、質問の発話行為を意図していたと見

することもできる。

(9) a オーバーローンが解消できない時期に二兆円も消化されなければならない。そうしたら、どこへどうなるか。過去の例を申し上げます。コール市場が三銭の余の金利になって、ここで資金量を求める競争が行なわれた。そのときにどういうことが行なわれたか。蔵相に聞く。[福田赳夫大蔵大臣の発言に移る] (1966/2/10, 加藤清二)

b いいかげんなことを言っではいかぬ。アメリカが日本の輸出品に対してどのような制限と注文とクレームをつけてきているか、外務大臣。-外務大臣に聞く。[椎名悦三郎外務大臣の発言に移る] (1966/2/10, 加藤清二)

「たい」や「ない」(「せざるを得ない」)のような形容詞型活用の助動詞に丁寧語を承接させる方法は、動詞・名詞に比して定まっていない。例えば「聞きとうございます」のように「ございます」を付すことはあり得るが、「ございます」の使用は少なくなっているとされる(宮地 1971)。あるいは「聞きたいです」のように「です」を付加する方法があるが、「形容詞+です」が“熟さない”とする意識も見られる(鳥飼 2004)。今回のデータの範囲で丁寧語が使用されていない例は、何らかの表現効果を意図しているというより⁶、敬語の承接上の要因から丁寧語を付すことを避けたと捉えておくほうが穏当のように思われる。

その他の敬語使用について、丁寧語の次に多いのはオ語幹でほぼ横ばいである。ただし、1961・1971年のような最も多かった時期に比べると、敬語の使用は減少しているようにも見える。

謙譲語 B は 1966 年頃までは 50% 近くの高い率を保っていたものの、そこからは減少傾向にある。謙譲語 A は 1951 年にはある程度の用例数があるが、その後はそれほど多くない。受益表現は 1991 年以降 2001 年にかけて上昇する。しかしその後も一時的に上昇するわけではなく、むしろその伸びは抑えられているように見える。

3. 2. 2 使用される組み合わせの変化

次に組み合わせについて見ていくことにする。期間中に比較的多くの用例が見られる「③丁」「④オ+丁」「⑨オ+B+丁」「⑩A+受益+丁」「⑪オ+A+受益+丁」の推移を図 2 に示す。また、この変遷を模式的に示すと、表 3 のようになる。

すべての時代を通して「④オ+丁」は通時的によく用いられている。時代ごとに見ていくと、1950 年代には「④オ+丁」以外にも「③丁」「⑦B+丁」「⑧オ+A+丁」「⑨オ+B+丁」などの形式に 10~20% 程度の用例数があり、使用者の選択に幅がある。その後 1960 年代は「④オ+丁」「⑨オ+B+丁」が並んで多く用いられている。しかし、1970 年代以降「⑨オ+B+丁」は減少傾向にある。また、「③丁」は 1976 年以降用例が増加し、ほぼ横ばいで推移する。さらに、およそ 1990 年代より、受益表現を用いた「⑩A+受益+丁」「⑪オ+A+受益+丁」の用例数が増加する。

全体的な傾向としては、敬語使用のバリエーションが少なくなってきたことや表現形式が単純化してきたこと、また、受益表現の使用の伸長が見て取れる。以下、敬語運用の変化について 4.1 節、受益表現の使用について 4.2 節にて述べる。

⁶ 丁寧体の談話・文章中で丁寧語が用いられなかった際の表現効果については、宇佐美(1995)、野田(2003)等に考察がある。

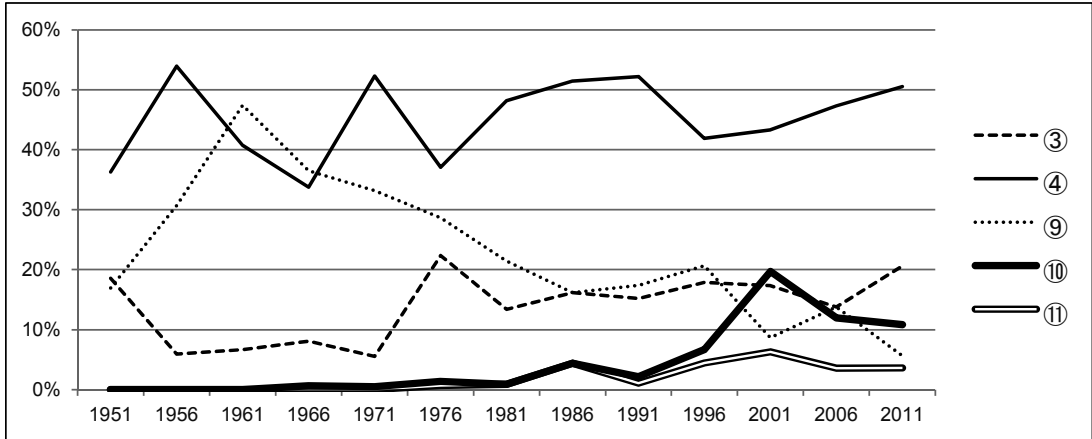


図2 使用される組み合わせの変化

表3 前置き表現に用いられる表現の変遷

	1950年代	1960年代	1970年代—1990年代	2000年代
30%超	④オ+丁	④オ+丁 ⑨オ+B+丁	④オ+丁	④オ+丁
10-20%程度	⑨オ+B+丁 ③丁 ⑦B+丁 ⑧オ+A+丁	-	⑨オ+B+丁 ③丁	③丁 ⑩A+受益+丁 ⑨オ+B+丁

4 変化の解釈と要因

4.1 敬語運用の変化

使用される敬語のバリエーションに着目すると、1951年においては「③丁」「④オ+丁」「⑦B+丁」「⑧オ+A+丁」「⑨オ+B+丁」と5つの表現が10%以上の割合となっており、一定数の用例があった。しかし、2011年において10%を越える用例は「③丁」「④オ+丁」「⑩A+受益+丁」のみである。オ語幹にさらに謙譲語A・謙譲語B形式を付加する「⑧オ+A+丁」「⑨オ+B+丁」が減少し、用例数が多いものを見ても「③丁」「④オ+丁」が残っているところから、全体的に敬語の組み合わせは単純なものに収斂していく、という傾向が捉えられる。

このことは大石(1983)で示されているような“敬語の簡素化”，あるいは“丁寧語優勢”と軌を一にするように思われる。大石(1983)は現代の敬語について、上位者の動作に対して尊敬語を用いず、丁寧語だけで待遇するようになったことを挙げる⁷。本稿で取り扱った前置き場面はすべて補語が聞き手であり、聞き手に対して素材敬語で待遇することのできる語であるが、丁寧語・オ語幹・受益表現以外の形式は用いにくくなっている。全体的にあまり要素を付加せず、単純な組み合わせの敬語形式を用いる傾向にあるといえる。

⁷ 大石(1983)は“簡素化ということが現代敬語における著しい一つの状況として指摘される”と述べ、その例として、皇室に対する敬語の変化が簡素なものになったこと、家庭内の敬語が微弱なものになったこと、書き言葉・話し言葉上の脱待遇表現化などを挙げる。

ただ、単純に敬語の不使用に向かうのではなく、才語幹自体の使用は依然として多く、素材敬語としての謙讓語を保とうとする意識はあると考えられる。これは、敬語の簡素化のひとつとして謙讓語の衰退が言われるのとは少し異なる傾向である。これには、対象とした前置き場面が、必ず聞き手が発話場に存在するものであること、また、国会という公式な場であることが影響していることも影響があると思われる。

4. 2 受益表現の変化

近年「させていただく」の増加が注目されているが、本稿の調査でもその増加は見られた。「⑩A+受益+丁」「⑩オ+A+受益+丁」は1996年から2001年の間に著しく増加した。

井上(1999)によれば、「させていただく」は1950年代に関西から東京に入ってきた。茜(2002)によれば、「させていただく」に関する批判的な論調もその1950年代頃から見られる。このことから、日常の話し言葉ではすでにその頃から使用量が増えていたと想定される。本稿のデータによれば、国会で「させていただく」の使用量が増えるのはこの時期よりも少し遅れていることになる。

「させていただく」の増加は、本来許可を得て「させていただく」ことを示す形式が、本稿の前置きのように許可が不要の場面にも拡張して用いられるようになった結果であり(菊地 1997)、受益表現が事態の性質に関わらず一般的に丁寧さを表すという機能を拡張させたことを示している。筆者は行為指示表現(森 2010)・申し出表現(森 2011)の調査を通し、おおよそ近代以降受益表現の運用に関する制約が強化されたことを述べた。本稿の結果はこれらよりさらに進んで受益表現が発話自体にかかわらず丁寧な表現とみなされ、聞き手に配慮する一つの形式として敬語と同様に運用に組み込むようになったという一つの事例である。

ただし、2001年以降、「させていただく」の増加はむしろ抑えられているように見える。このことには、1990年代以降には、公的な文書・調査等にも取り上げられることが多くなったことも影響していると考えられる。例えば、「さ入れ言葉」としての容認度を問うものではあるが、文化庁「国語に関する世論調査」で、1996(平成8)年度、2007(平成19)年度、2013(平成25)年度と継続的に「させていただく」が取り上げられている。また2007年度に出た文化庁の「敬語の指針」でも、その使い方に関しての注記が掲載されている。これらのことから「させていただく」は人々の意識にのぼる機会が多くなったと見られ、逆に国会のような公式の場で言葉の規範意識が働きやすい場面では、「させていただく」の使いすぎに対する抑制が働いたと考えられる。

なお、国会会議録のデータを見ると、「させていただく」の伸長よりも早く敬語の簡素化の流れが始まっているように見える。このことから謙讓語Bや謙讓語Aが少なくなってきたことが「させていただく」が運用しやすい余地を作ったということが想定される⁸。

5 まとめ

本稿で述べたことは以下の通りである。

- 1) 国会会議録の前置き表現を調査すると①敬語の組み合わせが単純なものに収斂する傾向にある、②1990年代以降「させていただく」が増加するという2点が認められる。[3.2.2節]
- 2) ①については先行研究で指摘される敬語の簡素化の流れに沿っていると考えられる。ただし、単純に敬語使用をとりやめるのではなく、丁寧語はほぼ義務的に使用され、表現効果

⁸ ただし、当時の話し言葉においては、国会よりも頻度高く「させていただく」が用いられていたものと思われるので、両者の因果関係についてはさらに検討の必要がある。

を意図して不使用にする例はほとんど認められない。また、オ語幹の部分は残りやすく、オ+動詞に後続する謙譲語 A・謙譲語 B 形式から先に使用されなくなっている [4.1 節]。

- 3) ②について、1990 年以降「させていただく」の使用が増加する。この形式は 1950 年代に東京に入ったとされており、国会での使用が増加したのは話し言葉での使用の増加よりも遅かったと考えられる。また、2000 年代以降の使用の増加は認められず、「させていただく」の使用の増加は抑制されている。[4.2 節]

本稿では国会という位相での変化について述べたが、一般の話し言葉についてどうであったかについては、さらに別の資料での検討が必要になる。本稿の結果は規範意識が働く中で、言語が新しい敬語形式をどのように取り入れていくかという、一つの言語変化の形を示しているものと考えられる。

資料

国会会議録 国立国会図書館「国会会議録検索システム」<http://kokkai.ndl.go.jp/>

参考文献

- 蒺八重子 (2002) 「～(さ)せていただく」について『講座日本語教育』38, pp.28-52, 早稲田大学日本語研究教育センター
- 井上史雄 (1999) 『敬語はこわくない』講談社現代新書
- 宇佐美まゆみ (1995) 「談話レベルから見た敬語使用—スピーチレベルシフト生起の条件と機能」『学苑』662, pp.27-42, 昭和女子大学
- 大石初太郎 (1983) 『現代敬語研究』筑摩書房
- 菊地康人 (1994) 『敬語』角川書店 (1997 年再刊, 講談社学術文庫)
- (1997) 「変わりゆく「させていただく」」『月刊言語』26-6, pp.40-47, 大修館書店
- 熊谷智子 (1997) 「はたらきかけのやりとりとしての会話—特徴の束という形でみた「発話機能」—」茂呂雄二 (編) 『対話と知—談話の認知科学入門—』pp.21-46, 新曜社
- 熊谷智子・篠崎晃一 (2006) 「依頼場面での働きかけ方における世代差・地域差」国立国語研究所 (編) 『言語行動における「配慮」の諸相』pp.19-54, くろしお出版
- 鳥飼浩二 (2004) 「理由は特にないです」北原保雄 (編) 『問題な日本語』pp.47-51, 大修館書店
- 野田尚史 (2003) 「テキスト・ディスコースを敬語から見る」菊地康人 (編) 『朝倉日本語講座 8 敬語』第 4 章, pp.73-92, 朝倉書店
- 松田健次郎 (2008) 『国会会議録を使った日本語研究』ひつじ書房
- 南不二男 (1974) 『現代日本語の構造』大修館書店
- 森勇太 (2010) 「行為指示表現の歴史的変遷—尊敬語と受益表現の相互関係の観点から—」『日本語の研究』6-2, pp.78-92, 日本語学会
- (2011) 「申し出表現の歴史的変遷—謙譲語と与益表現の相互関係の観点から—」『日本語の研究』7-2, pp.17-31, 日本語学会
- 山岡政紀 (2008) 『発話機能論』くろしお出版

(関西大学)